

# 成願寺

令和元年秋の観音詣り説教

## いのちの縁

静岡県東泉院副住職 金田祥道



静岡県 東泉院 副住職  
金田祥道師

みなさま、こんにちは。本日は東京からのご参拝ということで、遠いところをようこそおいでくださいました。小田原の最乗寺様に拝登なされて、本日の宿は稲取と伺っております。伊豆においても良い温泉で知られておりますので、おかつろぎいただけ

季報

122

令和元年12月18日  
(2019年)

目次

「いのちの縁」金田祥道……………	1
秋彼岸修証義奉読会の報告……………	5
中野たから幼稚園ご父母の「旧防空壕見学と坐禪体験」……………	6
こども教育宝仙大学の学生さん、中野たから幼稚園に來園……………	6
山内短信……………	8

### ◎年末の会（納めの観音）のお知らせ

十二月十八日（水） 会費 二千五百円

午後二時ご祈禱―住職挨拶・懇親会―四時解散

### ◎除夜の鐘・新年祈禱会

大晦日夜十一時半來会者一同で読経―撞き出し

令和二年元旦零時半新年祈禱―年賀祝杯

\*百七組予約受付・一撞き千円

\*除夜の鐘の前に古札ふるふだのお焚きあげをします。ご持参下さい（当日前のお預かりも可）。

\*新年祈禱の際、新春をお祝いして、参列の皆様と乾杯をします。その時に配られる干支杯はお持ち帰りいただけます。

\*毎年お分けていた干支絵馬、ここ数年なんとか工面していた作成材料もいよいよ無くなりまして。今回から廃止となります。

▼ご予約・お申し込みは寺務所まで。

◆

ると思いますが、その前のお時間を少し頂戴しまして、ご挨拶をさせていただきたいと思えます。

私はこのお寺に生まれ、三人姉妹の次女として育ちました。最初は姉がお寺を継ぐのかと思っておりますが、私に白羽の矢が立ちまして、名古屋の愛知専門尼僧堂という、女性だけが修行できる道場におきまして、修行をさせていただきます。現在は、師僧であり、住職であります父をサポートしながら、副住職としてお寺を守っております。

結婚もしております、連れ合いはアメリカ人です。息子が二人おりまして、長男が三歳の時に修行に上がりまして、一年間留守にいたしました。その間、寂しい思いをさせた長男も今は高校生になりました。

僧侶になる前は、実は伊豆急行という、この伊豆の東海岸沿い、伊東駅から伊豆急下田駅までを結ぶ路線がございますが、そちらで運転士として勤務をしております。運転士をしていた時は、僧侶としてお寺を継ぐという事は、定まったものではございませんでした。だんだんと決意を固めて僧侶として生きる決心をした、ということでございます。

鉄道の世界におりますと、一分一秒を常に意識いたします。学校を卒業して伊豆急行に就職し、運転

士として働く中で、時の大切さということを学ばせていただいたと感じております。また、はらはらドキドキすることもございました。それは、自分の注意だけではどうにもできないようなこと、そういったことに、運転士をしておりますと遭遇することがございました。そんな経験をいたしまして、僧侶の道へと入りましたけれども、僧侶になりましたから、時間ということをよく意識して過ごしております。また、どんなに注意をしても、自分の力ではどうにもできないことがあることを知りました。

#### ハリケーン・カトリーナを経験

私は修行を終えましてから、連れ合いの仕事の関係で、アメリカのミシシッピ州で二年間ほど暮らした経験がございます。平成十七年の八月下旬、ハリケーン・カトリーナという、アメリカ史上最大級の自然災害と言われていますが、大きなハリケーンに遭いました。まだ長男が小さかったこともございまして、避難所へ行ってハリケーンが過ぎるのを待たわけですが、それは恐ろしい時間でした。

やがてハリケーンが去り、避難所を出ましたら、景色が一変しておりました。一般的な多くの民家が

波に流されてしまい、ミシシッピの有名なビーチが瓦礫で埋め尽くされて、残っていたのは大きな建物だけでした。観光地でもございますので、ホテルやカジノなんかもあります、そうした建物は残っていたのですが、しかしよく見てみますと、建物ごと移動してしまっている。地面の上で移動してればまだ良いのですが、海まで移動してしまっているような建物もたくさんございました。私にとりまして経験したことのない大規模な自然災害でございまして、死者、行方不明者を合わせますと、およそ二千五百人もの方が亡くなり、各方面への甚大な影響、またその後の復興もとても時間を要しました。

日本でも東日本大震災での津波、また近年は台風による風水害が各地で頻発しております。この夏の台風による川の氾濫は記憶に新しいところでございます。私たち家族は、ハリケーン・カトリーナという大災害に遭いましたが、運良く、いのちを落とすことなく、アメリカでの生活を終えて日本に戻ることでできました。大勢の方が亡くなっている中で、助かったということは、生かされたのちであるのかと思うわけです。

私たちは日本に帰国しましてから、三年ほど佐世

保で過ごし、この東伊豆のお寺に戻って参りました。

#### いのちの繋がり

「いのちの縁」ということを、これからお話したいと思えます。私はこのお寺で生まれ育ちましたので、物心のついた時からこの本堂がございました。皆さま、私の後方をご覧くださいますと写真がございませぬ。これは第二次世界大戦で亡くなられた方々の写真です。だいたいお若い方です。この方たちは、このお寺の周囲、浜地区の方たちで、もう少し山の方へ参りますと公民館がございまして、そちらにはそちらの地区の方々の写真が飾られています。

私はこのお写真を、子どもの頃からずーっと見てきました。小さい頃は何も思いませんでしたが、不思議なことにごこの本堂のどこにおりまして、写真のみなさんと目が合うのです。僧侶となって、改めてこの写真の前に立った時、それ以前とは見方が変わりました。自分が親になったことも影響していると思えますが、この方々が戦争に行くことなく、若くして命を落とすことなどなければ、きっと今の私のように結婚をして子どもを授かり、家庭を築いて、仕事をし、人の役に立つ事をしたいと思っただろう。

時に悲しいこと、辛いことがあって、いずれ病を得て死にいたるとしても、そういう人並みな人生が、あつたはずなのです。

ある時、この写真の方のご親戚の法事がございました。お話を伺いましたら、「この写真の人たちはみんな元氣なお兄さん方で、威勢が良かったんだ」と教えてくださいました。そうした威勢の良い人たちが戦争に取られる事などなければ、もしかしたらこの町は今よりも人がいて、賑わっていたかもしれないね。そんなことに思いがたりました。

私の祖父がこの方々と同じ時代を生きておりましたが、祖父は運よく戦争を生き残り、祖母も無事でしたが、おかげさまで現在の住職であります父が生まれ、私もこの世に生を受け、また子どもを授かることができました。ハリケーン・カトリーナの時に連れ合いが私かがいちのちを落としておりましたら、次男は生まれておりませんでしたね。

皆さまも同じで、その時代、時代を生き抜かれたご先祖さまがおいでになる。ご先祖さまがいらつしやるから、こうして私たちはこのいのちを生きることができているわけでございます。また、戦争で亡くなった方々や自然災害、交通事故など、自分の力で

はどうにもできないことで亡くなられた多くの方々がいらつしやいます。そのすべての皆さんに思いを寄せて生きて行くことが、丁寧に生きることへと繋がるのではないかと思うわけでございます。

平等にいただいている「プレゼント」

大本山永平寺を開かれた道元禪師さま、皆さまご存知のことと思います。その道元禪師さまが示された『正法眼蔵』から文言を抜き出して編集されたお経に『修証義』がございます。その一説に、

光陰は矢よりも迅すみかなり  
身命は露よりも脆もろし

とございます。これは、時間が過ぎ去るのは矢が飛んでいくよりも早い。そして人のいのちは朝露よりもはかない、ということなのです。時間というのは、気がつきません。気をつけなければ、あつという間に過ぎていってしまいます。皆さまにも与えられた時間というのを感じていただきたいのですが、英語の「プレゼント」をどう日本語に訳したら良いと思われませんか。ふつうに訳しますと「贈り物」ですかね。でも実はもう一つ意味がございます。「いまのこの

時間」という意味がございませぬ。「いまのこの時間」というのは、平等に全員に与えられた「プレゼント」なのです。

なにか失敗をしますと後悔いたします。でも、「あのときはあのときで真剣に取り組んでいたな」と思えるような、そんな毎日を地道に生きたいと思いません。そして、自分がこうして歩いてきた道というものは、他の誰のものでもございませぬ。これから歩いていく道も自分だけの道でございませぬ。歩いてきた道も、進んでいく道も、たとえそこに失敗があつたとしても、丁寧に生きるということを心がけ、また平等にいただいているこの時間を大事に感じていただきたいなと思つてございませぬ。

世界の人口は七十五億人と言われております。人間が人生の中で出会える人数というのは、いったいどのくらいでしょうか。赤ちゃんのところから数えても、七十五億人の人と出会うことはとても無理です。でも本日は皆さまの大切な時間をいただいて、こうしてお会いすることができました。どうかこれからも観音様にお詣りなされて元氣にお過ごしいただきたいと思つた。

本日はありがとうございます。

合掌

### ◎秋彼岸修証義奉読会の報告

去る九月二十三日(月)、秋彼岸お中日に合わせて修証義奉読会が営まれました。法要前に、ご希望のあつた当山檀信徒の授戒も執り行いました。厳肅な雰囲気の中、住職が導師をつとめ、「十六条の戒法」と戒名、輪袈裟等をお授けしました。

正午よりは彼岸会の恒例となつた、講談師の日向ひまわり師をお迎えして、講談「五貫裁き」の高座をおつとめいただきました。

十三時より檀信徒の皆さんとともに修証義を奉読し、ご先祖さまへの報恩の真を捧げました。法要のあと、檀信徒の皆さんは供養されたばかりの塔婆を手に墓参に向かいました。



日向ひまわり師の講談



お授戒の様子



修証義奉読会の様子



焼香する檀信徒の皆さん

## 中野たから幼稚園ご父母の「旧防空壕見学と坐禅体験」

九月二十七日（金）に行われた中野たから幼稚園全体保護者会の後、事前のアンケートでご希望のあったご父母、約五十人を成願寺にお招きしました。

これは、ご父母向けのイベントとして企画したもので、たから幼稚園の母体である成願寺への理解を深めていただくことと、全国的にも数少ない戦争遺跡・旧防空壕の見学を主事を務める副住職の案内で行いました。その後、本堂では園長を務める住職より、お寺の歴史、近隣の街の移り変わり、戦争体験等の講話がありました。さらに、年長児が毎月同じ本堂で行っている坐禅体験をご父母の皆さんにも修行していただきました。「防空壕に入ったのは初めてで考えさせられました」、「子どももしている坐禅体験を楽しみにしていました」などの声が聞かれました。（了）



幼稚園での保護者会の様子



旧防空壕を見学



坐禅体験

こども教育宝仙大学の学生さん、中野たから幼稚園に来園する七月三十日（金）、保育者を目指し学んでいる、こども教育宝仙大学のサークル「児童文化研究部（通称・ニコニコポロンズ（顧問・今井景子先生）」の学生さん九名が、中野たから幼稚園に来園しました。そのうちの一人は、現在大学二年の園長の孫娘です。ニコニコポロンズは、日ごろより人形劇を中心とした発表を行い、「こどもにとつての文化」について研究されているそうで、前身となる短期大学時代から続く伝統あるサークル。校外での活動も盛んにさられていて、サークル活動と研究の一環として、幼稚園にやってきました。

夏期保育に来ていた子どもたちとお誘いした卒園生、ご父母の皆さんの前で、五つのお話を披露。司会のお姉さん先生の「はじまりはじまり」の掛け



司会のお姉さん先生



赤い目のネズミさんたち



愉快的な鳥の人形劇



手遊びをするお兄さん先生



オバケちゃんのパネルシスター



夢中な子どもたち

声で、真つ赤なりんごが出現すると、音響をうまく利用した演出で子どもたちの興味を引きます。最初はりんごどネズミの物語で、手作りされた白い布手袋で何匹ものネズミを表現しました。楽しい音楽も効果的で、子どもたちから歓声が上がりました。

二つ目のお話は、おしゃべりがとつても上手な鳥さんの人形二羽が主役。「今日は良いお天気だから遊びに行こうかな」と鳥さんが呟くと、子どもたちから「公園に行つたら?」「遊園地に行つたら?」「水族館は?」「暑いからプールにしたら?」と次々に提案が。見ている子どもたちも言葉で参加できる趣向です。二羽の鳥さんが向かった先は、なんと提案のあった遊園地です。二羽がジェットコースターに乗る様子を動きと声で上手に演じていました。

三つめのお話は、お兄さん先生が登場して「ぺん



最後は全員で



最後に副園長からの講評

れ人形を操りながらタイミンダぴったりなセリフ回しで、子どもたちからは大きな拍手が起きました。(一)

ぎんマークの百貨店」でお買い物をする手遊び。一階はお化粧屋さんです。子どもたちと、ぱたぱたとお化粧すると、二階はおもちゃ屋さん。子どもたちはどれにしようか迷ってしまいます。三階はペット屋さんで猫を抱っこして「おしまい」。

四つめのお話は、お兄さん先生とお姉さん先生が登場して、「食いしん坊のおバケちゃん」のパネルシスターです。ピアノの演奏に乗って歌と振り付け、オバケちゃんど、ぶどうやみかんなどのフルーツのパネルを使ってテンポ良く物語が展開します。途中の呼びかけも楽しいお話でした。「オバケちゃんたち、何を食べていたかな?」と問いかけると、元気に答える子どもたちでした。

五つめのお話は、いろいろの「ことば遊び」と「ドレミの歌」。八匹の人形が登場。先生たちはそれぞれ



## 山内短信

### ◎大般若祈禱会のお知らせ

令和二年一月十二日（日）、午後一時より大般若祈禱会を開き、世界平和を祈願するとともに、ご参列の皆様の家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念いたします。どなたでも（檀家以外の方も）祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

### ◎年始めの会（初観音）のお知らせ（会費千五百円）



願文を読み上げる住職（今年）



懇親会の様子（今年）

令和二年一月十八日（土）午後二時より、新年初の観音さまの縁日大祭（祈禱会）を執り行います。願文を添えてお申し込みください。ご祈禱後は書院にてお汁粉で懇親会です。

### ◎「防火のつどい」において感謝状をいただく

毎年、十一月九日から十五日にかけて行われる「秋の火災予防運動」。その最終日に中野消防署主催の



「防火のつどい」が中野サンプラザに於いて開催されました。「消防行政に深い関心を寄せられ多年にわたり消防業務の円滑な推進に寄与した」として、中野だから幼稚園が中野消防署長より感謝状をいただきました。

### ◎成願寺「定例坐禅会」へのお誘い

当山は福井県永平寺を開かれた道元禅師、横浜市總持寺を開かれた瑩山禅師の教えを伝える曹洞禅のお寺です。毎週金曜日に「定例坐禅会」を修行しています。週により担当講師が代わり、坐禅の後に「写経」、読経と『修証義』講義があります。どなたでも指導いたします。

時間：毎週金曜 十八時三十分～二十時三十分。（初めての方は十八時二十分までにご来山ください）

服装：身体を締め付けない、ゆったりとした服が適しています。お寺で着替えができません。

持ち物：筆記用具。（写経で使う筆や硯等の道具、講義で使用するテキスト等はお寺で揃えます）

参禅費：一回 五百円（通信費含む）